
2025年度 事業報告書

学校法人 東洋学園

目次

1 学校法人の概要	
(1) 建学の精神	… 1
(2) 設置する学校、学部・学科	… 1
(3) 沿革	… 2
(4) 組織図	… 3
(5) 設置する学校、学部、学科の入学定員、入学者数等の状況	… 4
(6) 役員（理事・監事）、評議員	… 5
(7) 教職員数等	… 7
2 事業の概要	
・ 第2 期中期計画の推進	… 8
・ 学部・学科の概要	… 8
・ 教育関連活動	… 1 0
・ 施設・設備の拡充等	… 1 0
・ 研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン対応	… 1 1
・ 国際交流の充実	… 1 1
・ 学生生活支援全般	… 1 5
・ 入学試験関連	… 1 7
・ 卒業・終了の状況	… 1 7
・ 社会連携・社会貢献	… 1 7

2025年度 事業報告書

1. 学校法人の概要

【学校法人名】 ガッコウホウジン トウヨウガクエン
学校法人 東洋学園
(大臣認可年月日 昭和26年2月24日)

【主たる事務所】 東京都文京区本郷1丁目26番3号

(1) 建学の精神 自彊不息

本学の建学の精神として継承されてきた「自彊不息（じきょうやまず）」は、創立者・宇田尚が生涯を通して学生に伝え続けた、学びや人生の基本姿勢を表している。中国に伝わる易経の文言で、その意味は「自ら弛まず努力を続ける」ということ。大正時代、良妻賢母を良しとしていた社会通念を否定し、女性の歯科医師養成に励んだ宇田は、学生が信頼される専門家になり、自立し、自律した人間になることを求め、そのための指針として掲げたのが「自彊不息」である。時が過ぎ、社会の在り方や学校の形態は変わっても、建学の精神は不変である。「日々の努力を怠らず学びに励むことで成長し、社会を変えていく人間になってほしい」という願いを込めて、「自彊不息」を受け継いでいる。

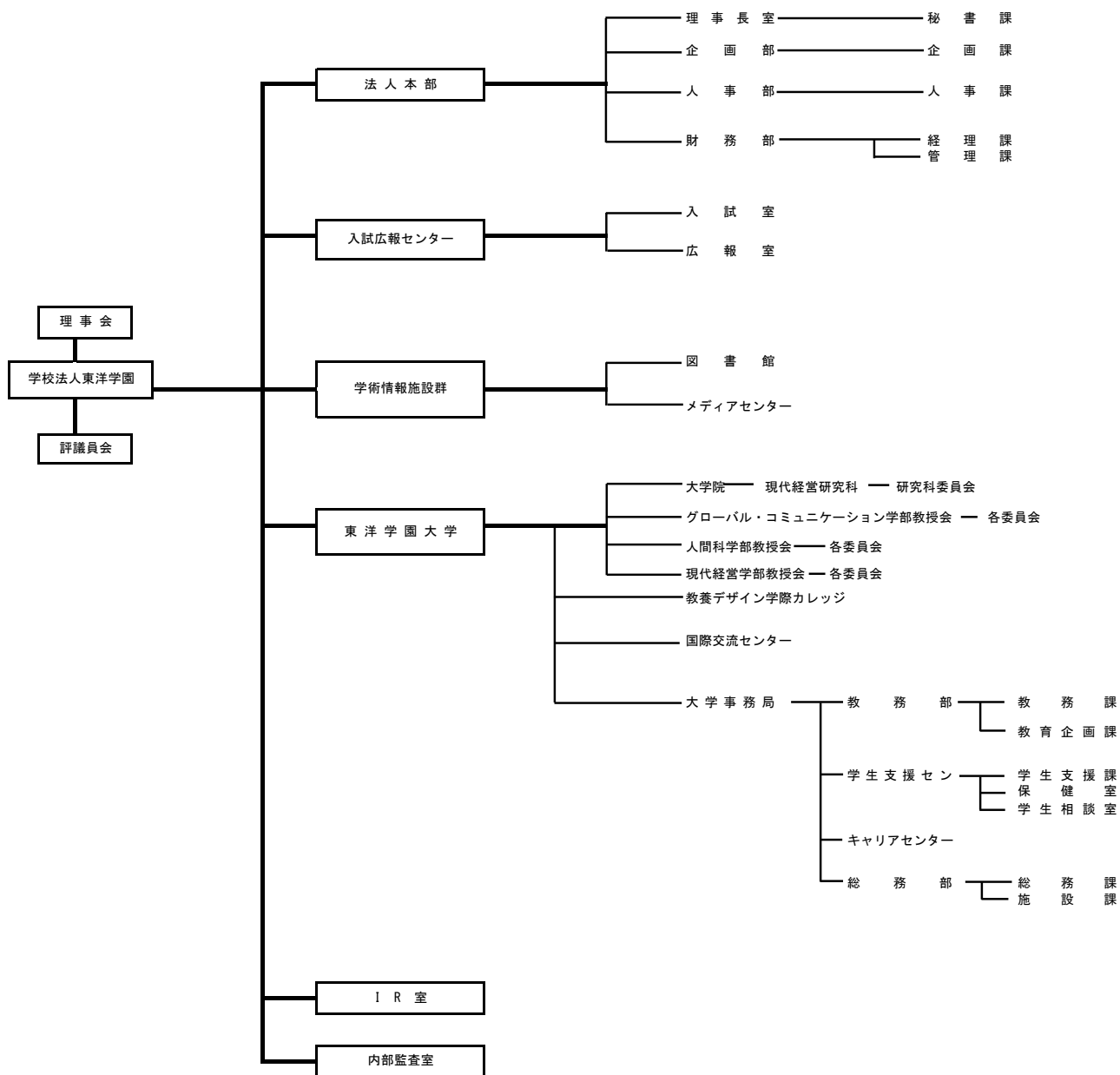
(2) 設置する学校、学部・学科

設置する学校												
フリガナ 学 校 名 (大学本部の位置)	学 部 ・ 学 科 等 名 (所 在 地)	開 設 年 度	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	2024年5 月1日現 在の学 生数	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	2025年5 月1日現 在の学 生数	備 考	
トウヨウガクエンダイガク 東洋学園大学 東京都文京区本郷一丁目26番3号	現代経営学部 (東京都文京区本郷一丁目26番3号)	年度	2024				2025					
			名	名	名	名	名	名	名	名		
	現代経営学科	H 14	245	35	990	818	245	0	985	933	2023年度入学定員変更 (215名→245名) 2025年度編入学定員変更 (35人→0人)	
	人間科学部 (東京都文京区本郷一丁目26番3号)											
	人間科学科	H 14	200	20	840	765	200	0	820	761		
	グローバル・コミュニケーション学部 (東京都文京区本郷一丁目26番3号)											
	グローバル・コミュニケーション学科	H 25	110	10	480	361	110	0	460	314		
	英語コミュニケーション学科	H 25	100	10	460	248	100	0	430	210	2023年度入学定員変更 (120名→100名) 2025年度編入学定員変更 (10人→0人)	
	東洋学園大学 計		655	75	2,770	2,192	555	0	2,695	2,218		
	東洋学園大学大学院 (東京都文京区本郷一丁目26番3号)											
	現代経営研究科 現代経営専攻	H 20	10	-	20	7	10	-	20	7		
	東洋学園大学 計		665	75	2,790	2,199	665	0	2,715	2,225		

(3) 沿革

学校法人東洋学園は自彊不息(じきょうやまず)の精神を建学の理念に掲げ、女性の自立のため歯科医師を養成する東洋女子歯科医学専門学校(旧制)として1926(大正15)年に建学し、以来90余年の歴史を有します。戦禍で施設を焼失した後は東洋女子短期大学として再発足し、英語教育に力を入れてきました。1992(平成4)年から男女共学の四年制大学となり、グローバル化が進む現代にあって時代の変化に対応できる力を身につけ、世界の発展に貢献できる人材の育成を使命としています。

大正6(1917)年	9月	前身・明華女子歯科医学講習所開校(翌年、歯科医学校に改組)
大正10(1921)年	12月	専門学校令による明華女子歯科医学専門学校に改組(女子初)
大正15(1926)年	11月	東洋女子歯科医学専門学校、文部大臣指定校(女子初)として創立
昭和3(1928)年	8月	ドイツ近代復興様式の校舎・寮竣工
昭和16(1941)年	5月	全て女性による歯科医学学術大会を挙行
昭和20(1945)年	4月	第二次世界大戦の空襲により施設を焼失
昭和21(1946)年	5月	千葉県津田沼町(現習志野市)の仮校舎に移転
昭和22(1947)年	4月	第1回歯科医師国家試験、合格率全国2位の成績
	5月	学制改革により女子歯科医専の廃止決定
	9月	旧制・東洋高等学校(理科乙類＝医学部予科)開校
昭和23(1948)年	11月	本郷校舎復旧
昭和25(1950)年	3月	東洋女子歯科医専第25回生、東洋高等学校第1回生卒業(最終)
	5月	新制・東洋女子短期大学(英語科)開学、英語科教員養成を開始
昭和36(1961)年	2月	本郷旧1～3号館第1期工事竣工建築家・今井兼次による「フェニックス・モザイク」完成
昭和39(1964)年	4月	コース制を設定、LL施設本格稼働開始
昭和42(1967)年	9月	千葉県流山市に流山キャンパス開設
昭和48(1973)年	4月	学科名称を英文科に変更、専攻科を設置
昭和53(1978)年	4月	学科名称を英語英文科に変更
昭和57(1982)年	4月	流山キャンパスに英米総合研究を骨子とする欧米文化学科を開設
平成4(1992)年	4月	東洋学園大学(人文学部英米地域研究学科・英米言語学科)開学
平成7(1995)年	4月	短大専攻科、学位授与機構認定となる
平成12(2000)年	4月	大学人文学部コミュニケーション学科開設
平成14(2002)年	4月	大学人文学部人間科学科、現代経営学部現代経営学科開設 (東洋女子短期大学英语英文科募集停止)
平成16(2004)年	4月	大学人文学部、既存3学科を再編し国際コミュニケーション学科開設 (人文学部英米言語学科、英米地域研究学科、コミュニケーション学科募集停止)
平成18(2006)年	3月	東洋女子短期大学第55回生卒業(最終)
平成19(2007)年	3月	本郷新1号館竣工
平成20(2008)年	4月	東洋学園大学大学院 現代経営研究科現代経営専攻開設
平成25(2013)年	4月	人文学部をグローバル・コミュニケーション学部(グローバル・コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科)、人間科学部人間科学科に再編 (人文学部国際コミュニケーション学科は募集停止)
平成26(2014)年	4月	就学キャンパスを学部別に再編
	4月	国際キャリアプログラム(ICP)開始
平成28(2016)年	4月	就学キャンパスを本郷に統合
	11月	創立90周年
令和4(2022)年	4月	東洋学園大学開学30周年



(5)設置する学校、学部、学科の入学定員、入学者数等の状況

学校名	学部・学科名	2025年度									平均入学定員超過率 下段：推薦入学
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 下段：推薦入学	入定充足率 下段：推薦入学	収容定員	現員	取定充足率	
東洋学園大学	現代経営学部 現代経営学科	245名	469名	444名	432名	301名	1.23	985名	933名	0.95	1.02
						232名	0.95				0.76
	人間科学部 人間科学科	200名	325名	311名	300名	206名	1.03	820名	761名	0.93	0.98
						169名	0.85				0.78
	グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科	110名	102名	100名	99名	73名	0.66	460名	314名	0.68	0.67
						62名	0.56				0.54
	英語コミュニケーション学科	100名	70名	70名	69名	48名	0.48	430名	210名	0.49	0.48
42名						0.42	0.38				
東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻	10名	4名	3名	3名	3名	0.30	20名	7名	0.35	0.25	
					1名	0.10				0.05	
学校名	学部・学科名	2024年度									平均入学定員超過率 下段：推薦入学
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 下段：推薦入学	入定充足率 下段：推薦入学	収容定員	現員	取定充足率	
東洋学園大学	現代経営学部 現代経営学科	245名	379名	368名	347名	187名	0.76	990名	826名	0.83	0.94
						103名	0.42				0.69
	人間科学部 人間科学科	200名	281名	279名	271名	179名	0.90	840名	768名	0.91	0.97
						116名	0.58				0.75
	グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科	110名	108名	105名	105名	58名	0.53	480名	364名	0.76	0.76
						30名	0.27				0.60
	英語コミュニケーション学科	100名	66名	65名	64名	46名	0.46	460名	249名	0.54	0.54
34名						0.34	0.41				
東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻	10名	9名	9名	6名	4名	0.40	20名	7名	0.35	0.35	
					1名	0.10				0.03	
学校名	学部・学科名	2023年度									平均入学定員超過率 下段：推薦入学
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 下段：推薦入学	入定充足率 下段：推薦入学	収容定員	現員	取定充足率	
東洋学園大学	現代経営学部 現代経営学科	245名	630名	610名	563名	251名	1.02	960名	887名	0.92	1.01
						204名	0.83				0.72
	人間科学部 人間科学科	200名	404名	396名	368名	208名	1.04	840名	812名	0.97	1.02
						183名	0.92				0.79
	グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科	110名	158名	156名	152名	94名	0.85	490名	425名	0.87	0.88
						88名	0.80				0.70
	英語コミュニケーション学科	100名	102名	97名	84名	44名	0.44	480名	322名	0.67	0.67
41名						0.41	0.47				
東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻	10名	6名	6名	2名	1名	0.10	20名	7名	0.35	0.48	
					0名	0.00				0.00	
学校名	学部・学科名	2022年度									平均入学定員超過率 下段：推薦入学
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 下段：推薦入学	入定充足率 下段：推薦入学	収容定員	現員	取定充足率	
東洋学園大学	現代経営学部 現代経営学科	215名	674名	644名	550名	231名	1.07	930名	865名	0.93	1.02
						178名	0.83				0.67
	人間科学部 人間科学科	200名	446名	433名	390名	188名	0.94	840名	815名	0.97	1.02
						149名	0.75				0.78
	グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科	120名	223名	213名	205名	78名	0.65	500名	457名	0.91	0.93
						62名	0.52				0.69
	英語コミュニケーション学科	120名	178名	171名	155名	63名	0.53	500名	402名	0.80	0.83
43名						0.36	0.56				
東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻	10名	2名	2名	2名	2名	0.20	20名	9名	0.45	0.55	
					0名	0.00				0.00	

※ 下段は、推薦入学(内数)。
※ 平均入学定員超過率は当該年度を含めた過去4年間の状況。
※ 人数等は、各年度5月1日現在の状況。
※ 小数点第3位四捨五入

(6) 役員(理事・監事)、評議員

〈2025年度理事・監事〉

理事・監事の区別	職名又は担当職務	フリガナ 氏 名	常勤・非常勤の区別	選任区分等	
				号	選任区分
理 事	理事長	アイチ タロウ 愛知 太郎	常勤	14-2	
理 事	常任理事	ツシナカ ユタカ 辻中 豊	常勤	7-1-1	学 長
理 事	理 事	カワガミ ノブアキ 川上 伸昭	非常勤	7-1-2	
理 事	理 事	フジマキ タケシ 藤巻 健史	非常勤	7-1-2	
理 事	理 事	トダ ナオコ 戸田 直子	非常勤	7-1-2	
理 事	理 事	マエダ マサフミ 前田 正史	非常勤	7-1-2	
理 事	常任理事	クスノキ ノブアキ 楠 誠晃	常勤	7-1-2	
理 事	理 事	セガワ コウヘイ 瀬川 浩平	非常勤	7-1-2	
監 事	監 事	ミウラ リュウイチ 箕浦 龍一	非常勤	22	評議員会決議
監 事	監 事	オオハシ ヨウスケ 大橋 洋介	非常勤	22	評議員会決議

(2026年3月末日現在)

理事長		14-2	理事会決議
(定数) (現員) (任期)		7-1-1	学長 (定数1名)
理 事 6～8名 8名 4年	選任条項	7-1-2	(評議員会選任) (定数5名以上7名以内)
(1号除く)			
監 事 2名 2名 4年		22	評議員会決議 (定数2名)

〈2025年度評議員〉

フリガナ 氏 名	選任区分等		備考
	号	選任区分	
ウダ タカオ 宇田 隆生	1	法人職員	
モロハシ ノブヒデ 諸橋 信秀	1	法人職員	
トヅカ ヒサコ 富塚 比咲子	2	同窓生	
ウチダ ミヨ 打田 美代子	2	同窓生	
タナベ エイチ 田邊 栄一	3	学識経験者	
アセガミ ヒデト 畔上 秀人	3	同 上	
ヨシタケ ヒロミチ 吉武 博通	3	同 上	
ミヤモト ヤスヒコ 宮本 保彦	3	同 上	
クロイワ タカシ 黒岩 高	3	同 上	

(2026年3月末日現在)

評議員	(定 数)(現員)(任期) 9～12名 9名 4年	選任条項	31-1-1 法人職員(定数2名以上3名以内) 31-1-2 同窓生(定数2名以上3名以内) 31-1-3 学識経験者(定数5名以上6名以内)
-----	------------------------------	------	---

(7) 教職員数等

[教育職員]

	2024年5月1日現在						2025年5月1日現在					
	東洋学園大学						東洋学園大学					
	学 長 辻 中 豊						学 長 辻 中 豊					
	学長・副学長	グローバル・コミュニケーション学部	人間科学部	現代経営学部	その他	大学合計	学長・副学長	グローバル・コミュニケーション学部	人間科学部	現代経営学部	その他	大学合計
学 長	1名					1名	1名					1名
副 学 長	1名					1名	1名					1名
教 授		13名	12名	9名		34名		14名	14名	9名		37名
准 教 授		6名	4名	8名		18名		6名	4名	6名		16名
専任講師		6名	3名	5名	1名	15名		4名	3名	6名	1名	14名
助教		1名	1名	0名		2名		1名	1名	0名		2名
専任合計	2名	26名	20名	22名	1名	71名	2名	25名	22名	21名	1名	71名
兼任講師	0名	33名	43名	45名	0名	121名	0名	29名	42名	54名		125名

[事務職員、嘱託職員、現業・技術職員]

	2024年 5月1日現在	2025年 5月1日現在
事務職員・嘱託職員	80名	76名
技術職員・現業職員	0名	0名
合 計	80名	76名

2. 事業の概要

【第2期中期計画の推進】

2025年度は、第2期中期計画（2025～2029年度）の初年度として、計画の着実な推進に向けた体制整備および進捗管理の仕組み構築に注力した。

本計画は、建学の精神「自彊不息」および3つの教育理念のもと、「教育理念の実現に向けた教育の進化」「収容定員の確保（100%超）および退学者の低減（5%未満）」「就職活動満足度（90%超）」の3つの重点達成目標を掲げ、その達成に向けて9つの大項目、29の中項目、46の事業計画から構成されている。

2025年度においては、各部局における事業計画およびロードマップの内容確認・見直しを実施するとともに、KPIの整理および進捗管理方法の統一を図り、計画推進の実効性向上に取り組んだ。また、達成度の低い案件への対応方針の検討など、計画の適切なマネジメントに向けた運用改善を行った。

今後は、年度ごとの点検・評価を通じて改善サイクルを確立し、第2期中期計画の着実な実行を図っていく。

【学部・学科の概要】

〈現代経営学部〉

現代経営学科（入学定員245名）

ビジネスコミュニケーションに必要な語学力と教養に加え、経営学・経済学・マーケティングの理論及び応用を学ぶことにより、課題発見力・行動力・他の人々と協働する力を修得させ、社会の持続的発展に貢献する人材を輩出することを目的としている。以下の3領域6コース体制で運営した。

【経営学領域】

- ・ビジネスリーダーコース
- ・ベンチャー・事業承継コース

【経済学領域】

- ・会計・ファイナンスコース
- ・政策・エコノミクスコース

【マーケティング領域】

- ・メディア・マーケティングコース
- ・消費者心理・サービスマーケティングコース

〈人間科学部〉

人間科学科（入学定員200名）

「心」「身体」「社会」についての科学である「人間科学」を多角的かつ総合的に学び、「人を支える人」として社会に貢献できる人材を育てることを目標としている。以下の3コース体制で運営した。

- ・心理・カウンセリングコース
- ・スポーツ健康コース
- ・人間社会コース

〈グローバル・コミュニケーション学部〉

グローバル・コミュニケーション学科（入学定員110名）

グローバルな現代世界の諸課題について幅広く学び、その解決の助けとなるような考えやアイデアを発信できるようになることを目標としている。日本を含むアジアの文化・社会についても学ぶことで、グローバル世界の課題に向き合い、その解決につながるような新しい価値を生み出すことのできる人材を育成することを目指し、2年次ゼミである複数の「専門基礎演習」を履修する中で専門分野の視野を広げ、3・4年次に開設されるゼミ（専門応用演習・卒業研究演習）を中心とした各科目修得へとつなげるよう運営した。

英語コミュニケーション学科（入学定員100名）

グローバル世界の第一共通語としての英語について文化・社会的な面から学ぶとともに、仕事で英語を使いこなせるようになることを目的としている。英語圏の文化について幅広く学びつつ、効果的な学習法を通じて実践的な英語力を身につけることで、グローバルビジネスの世界で活躍できる人材や、英語教員・日本語教員としてのキャリアを築くことのできる人材を育成することを目指し、「英語コミュニケーション」「英語圏社会」「英語圏文学・文化」「英語学」「英語・日本語教育」という5つのフィールドを中心とした多彩な専門科目を揃えて運営した。また、教職課程が配置されており、履修により、中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）を取得できる。

〈大学院現代経営研究科〉

現代経営専攻（修士課程 入学定員10名）

既設の現代経営学部現代経営学科を基礎として、学部段階における教養教育とこれに裏打ちされた専門的素養を基礎として、経営学分野を中心とした専門性の一層の向上を図ることにより、社会の多様な要請に応えることのできる幅広く深い学識と研究能力に加えて、高度の専門的な職業等を担うために必要な卓越した能力を備えた人材を育成することを目的としている。

【教育関連活動】

○PBL 実施の推進

「TOGAKU IMPACT 2030」で示された教育方針に基づき、本学における PBL 教育の推進を目的として、教育成果の発表の場である「TOGAKU SHOWCASE」を実施した。本企画には 3 学部 10 団体が参加し、学生による多様な取り組みが展開された。また、その成果の一部については全学研究会において好事例として取り上げられ、教職員間で広く共有された。

○職員の授業参画

2 年目となる職員の授業参画は、「教養基礎演習 A」において引き続きパイロットクラスとして試行した。これまでの実践が一定程度蓄積されたことから、本取組を「職員授業参画プロジェクト」として位置づけ直し、秋学期より全職員を対象に「教養基礎演習 B」および「情報処理基礎 B」への参画募集を行った。

その結果、「教養基礎演習 B」では 3 クラスに各 1 名、「情報処理基礎 B」では 6 クラスに計 9 名の職員が授業に参画した。

○「教養デザイン学際カレッジ」の始動

学部の専門教育につながるための初年次教育、基盤教育の充実をはかるため、「教養デザイン学際カレッジ」が始動した。英語教育開発センターと教養教育センターの業務の一部を継承・実施するとともに、キャリア教育科目の見直し・新設、入学前課題の見直しなどに着手した。

○情報処理教育の充実

「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の認定を受け、2024 年度・2025 年度に「情報処理基礎 AB」の単位を取得した学生に対し、オープンバッジを発行した。

また、「情報処理基礎 B」においては、「情報処理基礎 A」の成績に基づいてクラス編成を行い、学生の習熟度により適した授業運営が可能となる体制を整えた。

【施設・設備の拡充等】

○1 号館

- ・喫煙所からの副流煙防止対策として、喫煙所に仮囲いを設置する工事を実施した。
- ・夏季の屋上において、「気化熱」を利用して温度低下が可能なミストシャワーを設置した。
- ・学生からの要望を受け、売店営業時間外でも食事を購入できる「冷凍スマート販売機」を 5 階売店脇に設置した。
- ・汚れが見られたフェニックスホールの移動座席のクリーニングを実施した。
- ・三河稻荷神社例大祭の際、近隣町会である元二親和会の神酒所を本学内に開設した。

- ・本郷台中学校の空調工事に伴い、夏季期間中、体育館を同校のクラブ活動に開放した。
- ・W リーグ所属の SMBC TOKYO SOLUA に対し、週末の体育館を定期的に有償貸出した。

○1・4 号館

- ・女子学生および女性教員からの要望を反映し、女子トイレの改修工事を実施した。
- ・更新から 18 年が経過した空調設備の更新工事を実施した。

○4 号館

- ・喫煙所前にサーキュレーターを設置し、館内への副流煙流入防止対策を実施した。

○5 号館

- ・利用頻度の低かった外部駐車場を外部へ賃貸し、有料コインパーキングとして運用を開始した。

○1・4・5 号館

- ・電力契約会社を東京電力から関西電力へ変更し、電気料金の削減を実現した。

○東洋学園大学グラウンド

- ・近隣の特別養護老人ホームや地域住民からの依頼もあり、グラウンドを作ってから初めての高木剪定を行った。
- ・地域住民のために施設開放を行い、地域の団体と 2026 年 1 月 12 日(月)に新春凧揚げ大会を開催し、約 60 名が参加した。また、月末の 1 月 31 日(土)には、テニス部にも協力してもらいテニピン教室を開催し、約 2 名の子供たちが参加した。

○湯島大同ビル

- ・賃借フロアの契約更新に際し、賃料の増額改定を行った。

【研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン対応】

文部科学省が定める「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づく履行状況調査への対応を行った。

本学における公的研究費の適正な管理・運営を確保するため、関係部署と連携し、体制整備状況や運用実態の点検を実施するとともに、必要な資料の取りまとめ及び提出を行った。また、研究費不正防止に向けた内部統制の強化の観点から、既存の規程や運用の見直しを行った。

今後も継続的な点検・改善を通じて、公的研究費の適正な管理体制の維持・強化を図る。

【国際交流の充実】

学内の組織改編により、EEDC は 2024 年度末をもってその役割を終え、2025 年度、Global Lounge を取り巻く業務は IEC が、表現伝達科目としての英語教育に係る業務は教育企画課

に引継がれた。

○長期留学制度

留学形態	申請条件	奨学金
国際交流センター特別留学	GPA3.3～、TOEIC500～	50 万円/年
本学/JSAF 協定校留学	GPA3.0～、TOEIC450～	奨学金 30 万円/年 15 万円/半年
認定留学	GPA2.5～、TOEIC350～	なし
認定留学 国際交流センター特別奨学金 (New Zealand)	GPA3.3～、TOEIC350～	50 万円/半年・1 年

本制度では、①授業料減免、②単位認定があり、③在籍期間とすることによって 4 年間での卒業が可能となる。2025 年度の制度利用者は 1 年間 5 名（オーストラリア、ニュージーランド）だった。

休学してインターンシップやスポーツ留学、ワーキングホリデーなど海外で経験してみたいという学生に奨励金（20 万円/年、10 万円/半年）を支給する「海外経験休学サポート制度」の利用者は、2025 年度はいなかった。

○短期留学制度

2025 年度に実施したプログラムは以下の通り。

夏季：IEC 主催プログラム（イギリス、カンボジア）、ISA（オーストラリア、韓国、ニュージーランド、マルタ、マレーシア）

春季：IEC 主催プログラム（カナダ、中国、スペイン）、ISA（オーストラリア、カナダ）

参加数は夏季 17 名、春季 22 名で、参加学生の語学力アップ、インターンシップやボランティア等の国際体験活動を実践することとなった。

ISA（Independent Study Abroad / 海外自主留学）は 2024 年度より運用が開始され、夏季は 11 名、春季は 2 名の参加があり、初年度から利用者数が大きく伸びた。特に夏季には、IEC 主催プログラム「韓国」の希望者が最少催行人数に至らず実施ができなくなったが、当該制度を利用することで、学生の希望に沿った韓国への語学留学を叶えることが可能となった。最少催行人数の制限なく、1 名からでも留学が可能となった点は大きな進展である。所定の条件を満たせば「海外文化演習」や「国際体験演習」という卒業要件科目の 1 つとして単位が認定されるため、留学先やプログラムの期間・内容の選択肢が拡大し、学生一人ひとりの多様なニーズに沿った形で学びながら卒業要件を満たすことが可能となり、留学という目標をより具体化する機会を提供できるようになった。

○留学準備セッション

留学に参加する学生を対象に、留学決定後から出発前の学期期間中の毎週 1 度、「留学準備セッション」を実施した。この取組は、学生の意識向上やプログラム参加学生同士の円滑な人間関係の構築、大学への帰属意識の醸成を目的とするとともに、異文化交流への導入、マインドセットの形成、問題解決力の活用などを扱っている。

この仕組みの成果として、事務局と参加学生が毎週顔を合わせることから、事前手続きに不備があった場合など迅速に対応ができることが挙げられるほか、出発前から同じプログラムに参加する学生同士のネットワークが構築できるため、留学に向けた不安を解消できるなど、学生、事務局双方にとってプラス効果が認められた。

○COIL(Collaborative Online International Learning / 国際連携学習)

アメリカの協定校サム・ヒューストン州立大学 (SHSU) の学生とオンラインで、「なぜ結婚するのか？」をテーマとした共同プロジェクト (第 3 回) を実施し、社会的・経済的・心理学的観点から議論を深めた。本学からは 3 学部、1～3 年次生まで 10 名の学生が参加し、事前研修後、合同講義でのアイスブレイクや Zoom セッションを通じて、活発な交流を行った。本学参加学生の語学力に課題が見られた。

○国際キャリア開発イベント

留学からの帰国後、自身の留学経験を就職活動や将来のキャリア構築にどのように活かすかを考えるイベント「Future Me」を開催している。2025 年度は帰国者報告会に卒業生を招聘し、自身の経験を語っていただくほか、質疑応答も含め在學生と卒業生の交流の機会を設定した。

夏季留学プログラム「Future Me」では、ベンチャー企業に入社後、人材育成の経験を経て、28 歳に独立して会社を運営している卒業生を講師に迎え、学生時代にアメリカ・テキサス州での海外インターンシップを契機に新しい価値観に目覚め、帰国後は地元の地域活性化に取り組んだ経験をもとに、留学で得られるものは語学力だけではなく価値観である、との持論を語っていただいた。

春季留学プログラムでは長期・短期留学者合同での帰国者報告会を実施し、現在、大学附属日本語学校で日本語教員・留学カウンセラーとして活躍する卒業生から、留学経験が現在のキャリアに直接関わっているということ、大学時代に Lounge Mate や English Lounge を活用していた経験が留学に役立ち、留学時に吸収できるものが多かったという、在學生にとって身近なロールモデルとして刺激を受ける具体的な内容が語られた。

○Lounge Time

Global Lounge において昼休みに開催される Lounge Time は、今年度より EEDC から業務を引き継いだ。従来の英語 Lounge Time に加え、中国語 Lounge Time も実施している。

英語を介した学生同士の交流や、インターン生およびネイティブスピーカー教員との会話練習、さらには本学留学生との中国語学習を通じた学習意欲の向上など、自律学習支援の場として機能している。

○国際交流イベント

留学先各国について理解を深めること、また留学生と日本人学生の交流を深めることを目的に、様々なイベントやプログラムを実施した。

グローバル・ラウンジでは、アラビア語圏、イギリス、インドネシア、スペイン、ニュ

ージーランド、ウェールズなどをテーマに、それぞれの国や地域の文化や、Lafcadio Hearn の作品を紹介するイベントを実施した。インドネシア、ウェールズ、Lafcadio Hearn に関するプログラムでは、外部や専門の教員によるプレゼンテーションで本学学生の関心を集めた。

また、留学生と日本人学生の交流イベントとして、中国式まんじゅうを実際に作って食べるという体験型イベントを開催し、国籍を問わず交流する中で相互理解が深まった。

○Lounge Mate

インターンや教職員とともに Global Lounge を活性化する取組として、「Lounge Mate」制度を導入した。昼休みの Lounge Time における学生のファシリテーションや広報記事の作成、国際交流センター主催イベントの準備および当日の運営補助など、学生が協力可能なタイミングでボランティアとして活動している。

本制度を通じて、リーダーシップ力の養成や、語学力の向上、他学部・他学年の学生との交流促進など、学生の成長を支援している。

○SHSU in Togaku

アメリカの協定校であるサム・ヒューストン州立大学 (SHSU) のサマースクールは 11 回目を迎え、教員 1 名と学生 14 名が来日し、本学で 3 週間のプログラムを実施した。日本文化紹介イベントや郊外学習、歓送迎会などを通じて本学学生（延べ参加者 250 名以上）と親交を深めた。

○浙江旅游職業学院 in Togaku（日本文化体験演習）

中国の協定校である浙江旅游職業学院とのインバウンドプログラムは昨年度に続いての開催となるが、同行教員不在の中、危機管理対策を整え、学生 3 名が 5 日間にわたり参加した。学園祭の体験をはじめ、茶道・華道などの日本文化体験、郊外学習、特別授業を通じて、60 名以上の本学学生と交流を深めた。

○「鑑真杯」中国語スピーチコンテスト

中国語の運用能力を高めるとともに、日中両国の相互理解と友好の促進を目的として、学内で実施する「鑑真杯中国語スピーチコンテスト」第 13 回を開催した。「暗唱・朗読部門」には 9 名、「スピーチ部門」には 5 名がエントリーしたほか、「特別スピーチ部門」では、中国にルーツを持つ学生 2 名が発表を行い、日頃の中国語学習の成果を披露した。

○国際キャリアプログラム (International Career Program)

1 年間の留学を必須とする本プログラムにおいて、ICP 最後となる 11 期生 4 名が、留学先であるアメリカへ出発した。うち 1 名は 1 年間の学部留学としてハートウィック大学へ、3 名は語学+学部留学としてテネシー工科大学へ出発した。

2025 年度は、米国の留学ビザ発給の厳格化の影響を受け、2 名はビザ面接が 8 月初旬にずれ込み、3 週間遅れて留学先での授業に参加することとなった。ビザ面接の予約状況やアメリカ到着遅延に伴う留学先大学の対応等について情報収集を行うとともに、留学が困

難となる可能性も含め、様々な状況を想定したシミュレーションを行い、学生本人および保証人との面談を行うなど、丁寧な対応に努めた。

○インターン

2025 年 7 月末までを任期としたインターン 2 名は、無事にその役割を終了した。

一方、2025 年 9 月着任予定であったインターン 2 名については、CoE（在留資格認定証明書）の交付遅延に伴い、2026 年 1 月 13 日（火）に着任した。授業補助や Lounge Time の運営、イベント開催等に従事し、多くの学生の参加が得られた。インターン不在期間中の Lounge Time は、春学期と比較して参加状況が低調であった。インターンの存在は、本学学生の英語教育の充実に加え、国際交流および異文化理解の促進にも寄与している。

○外国人留学生

外国人留学生の管理業務（毎週の在籍確認、各種奨学金の紹介、手続き等）を行い、学生の生活面や学修面での相談に対応している。また、留学生同士の交流にとどまらず、日本人学生との相互交流を促進するため、有志学生や IEC 主催イベント、そして学部ゼミとの共同イベントを開催した。また、「鑑真杯」や「浙江旅游職業学院 in TOGAKU（日本文化体験演習）」では、留学生の積極的な参加に助けられた。

○海外の大学や機関などによる本学訪問

オーストラリアのヴィクトリア大学とは、今後の留学生派遣・受入および将来の協力体制の構築について検討を行った。

中国の浙江旅游職業学院とは、鑑真杯、日本文化体験演習および短期留学による学生・教員の交流に加えて、学士入学（編入学）に関する協定を締結し、両大学間の連携強化の契機となった。

また、イタリア・ジェノバ大学から研究者が来学し、現代経営学部教員との学術研究発表会を実施するとともに、インターンを交えた意見交換を行った。

【学生生活支援全般】

学生支援センターは 2019 年度より、学生支援課、保健室、学生相談室で構成される新たな学生支援部門として発足し 2025 年度で 7 年目となった。この 3 部署は様々な場面において連携、協働しながら、学生支援においては、その業務全般を学生支援センターが担っており、3 部署の役割や障がいのある学生に関する修学支援については「学生支援センター利用ガイド」を配付するなどし、本センターの利用促進を図っている。

学生支援課は、学生生活の総合支援窓口として、日々の学生生活の支援を行っている。今年度は、各学年の春学期、秋学期オリエンテーション等の学内行事、学生総会、体育祭（春学期・秋学期）といった学生行事についても、滞りなく実施。クラブ会員勧誘については、通常の勧誘のほか、学内に各学生団体の PR ポスターをパネル展示するなどして、各

学生団体が新入生獲得を目指した。また学生会の中心的役割を担う学生会運営部の学生とともに、新規のイベントを企画・立案・実行するなどし、新入生の学生団体加入促進を図った結果、加入率は昨年度を上回った。フェニックス祭（学園祭）については、2 日間開催し、大きなトラブルもなく無事に終了した。

各クラブの日々の活動については、学生の自覚ある活動を促すとともに、適宜、施設使用や怪我予防に関する注意喚起を行った。

奨学金関連では日本学生支援機構奨学金、国が所管する高等教育の修学支援新制度のほか、本学独自の奨学金である東洋学園奨学金の採用枠を拡大する形で経済的支援を実施した。

また、2022 年度に本学同窓会独自の在学生向け給付型奨学金制度「東洋学園大学同窓会奨学金」が新設され、2025 年度も実施した。その募集、手続きは学生支援課が担い、選考は学生支援委員会で行った。

修学支援に関しては、本学の修学支援制度に基づき、支援対象者は申請者だけでなく支援が必要と思われる学生についても対象とし、学生相談室、保健室から修学支援制度を説明し申請を促し学生支援課へつなぐなど、各部署担当職員が綿密に連携し速やかに支援を行った。

障がい学生支援に関しては、支援体制の整備を行うにあたり、修学支援コーディネーターを配置し、また 2024 年度中に障がい学生支援に関する諸規程を見直し改訂した。改訂にあたっては、障がい学生支援は全学的な取り組みであることを明確にすることを目的とし 2025 年度はその規程に基づき支援を行い、特段問題なく運用された。

保健室においては、学生の日々の健康維持・増進に関わる保健指導や健康相談、定期健康診断の実施、健康診断証明書の発行、体調不良や病気・ケガ等の応急処置等を行い、学生の健康や安全への配慮に努めた。

オリエンテーションのお知らせの郵送中止に伴い、健康診断必要物品の郵送を中止し、TG-Navi とポスターで情報を周知した。結果、情報をとれなかった学生が多く、受診率が 82.1%(24 年度 87.6%)まで低下した。2026 年度に向け、他部署の協力を得て情報の周知を行った。健康診断結果・「大学に知っておいてほしいこと」に体調面の記載があった学生に対し、早期の聞き取りを行い、修学上の困りごとがないかを把握し、他部署連携や障がいのある学生への修学支援につなげた。

また、健康フェアとして 6 月に貧血検査、11 月に骨密度測定を実施し、それぞれ 120 名近い参加があり、参加満足度も 90%以上の結果が得られた。

学生相談室では、日々 2 名の体制で相談を受け付け、漏れなく対応できるよう努めている。主要な業務として、学生・保護者のカウンセリング、教職員のコンサルテーションが挙げられる。これ以外に、新入生健康調査とその調査結果におけるハイリスク者の呼出面

接、学生が安心して交流できるグループ活動や心身の健康増進を目的とした講座の実施、心理教育的な内容を含む「学生相談室だより」や「学生相談室 NEWS（教職員向け）」の発行を行い、学生並びに教職員への学生相談室利用を促した。また、2025 年 5 月から家族型ロボット「LOVOT」を導入し、学内での利活用を促進している。

2022 年度から開始した「こころの健康相談（精神科相談）」を 2025 年度も実施。学生が学内で精神科医に相談できることにより、精神医学的な立場からの助言を受けられる。2025 年 8 月には外部講師による部署内研修会を開催し、学生相談室・保健室・学生支援課のスタッフが参加。その後の学生支援対応および連携体制等に活かしている。

【入学試験関連】

2025 年度、現代経営学部において総合型選抜に導入した「PBL 方式」を全学部を実施した。また、同総合型選抜で新たに「特待生選抜方式」を導入した。これらによって総合型選抜全体では前年度比 170%（324 名⇒461 名）と昨年度に続き受験生が大きく増加した。

一方で学校推薦型選抜では前年度比 75%（236 名⇒177 名）と減少となった。

一般選抜において前年度比 144%（394 名⇒567 名）と受験生が増加、加えて手続き率も上昇（34%⇒36.8%）した。これは大学収容定員の定員管理の厳格化により、多くの大学で入学者を絞ったことが大きな要因として挙げられる。

学校推薦型選抜の減少はあったが、総合型選抜、一般選抜の大幅な受験者増加、手続率の向上により、本学全体としては全学部全学科で定員を上回る入学者を迎えることができた。これは全体的な入試の早期化、他大学の合否状況など外的要因が影響したものと考えられる。

【卒業・修了の状況】

現代経営学部 158 名、人間科学部 185 名、グローバル・コミュニケーション学部 177 名の卒業生、現代経営研究科 3 名の修了生を輩出した。

【社会連携・社会貢献】

(1) 講座

○公開講座（リベラルアーツ）

5 月～7 月に計 6 回にわたる公開講座（リベラルアーツ）を講座料無料で対面およびオンラインで実施した。

○現代経営研究会

10月～12月に計5回にわたり、業界・企業の経営者を招いての講座を講座料無料で対面およびオンラインにて一般公開した。2025年度テーマ：「進化と深化」

○生涯学習講座

本郷キャンパスにて夏季講座（8月）に12講座、2・3月に春季講座14講座実施した。

○文京区学長講演会

11/8（土）、フェニックスホールにて、文京アカデミア大学プロデュース特別公開講座（主催：公益財団法人文京アカデミー）を開催した。

（2）地域連携イベント

○子供服譲渡会

9/4（木）人間科学部の「人間社会演習」（種村文孝准教授）と、文京区とゼンドラ株式会社との産官学連携活動「こども服の譲渡会」を本学キャンパスにて開催。不用になったこども服や絵本を回収し、必要な人に譲渡する企画である。

○大横丁通り祭り こども縁日

10/12（日）、本郷キャンパスの地元・本郷大横丁通り実業会の主催する「大横丁祭り こども縁日」が開催され、本学からは人間科学部「社会教育ゼミ」（種村文孝准教授）の有志学生、ワーク・スタディ・スタッフ（ワースタ）、学生スタッフがボランティアとして参加した。

○本郷百貨店祭り参加

10/20（日）本郷百貨店実行委員会主催の「2025年度本郷百貨店祭り」に田蔵ゼミをはじめ3団体が出展参加した。

（3）その他

○文京区本郷台中学校職場体験

9月に3日間文京区本郷台中学校3名の生徒を職場体験として受け入れた。

○本郷3大学地域連携活動報告会

11月と3月に本郷3大学連携（東京大学、文京学院大学）による地域連携活動報告会を2回実施した。

○南流山中学校野球部との合同練習

1月と2月に南流山中学校野球部と本学硬式野球部の合同練習を実施した。